

第7回高知県における特別支援学校の再編に関する検討委員会

- 1 日 時 平成21年8月27日（金）18：30～20：30
- 2 場 所 県教育センター分館
- 3 出席者 委員15名中15名出席、事務局8名出席
- 4 議 題 高知県における特別支援学校の再編に関する検討委員会の意見のまとめ
- 5 内 容
議 題 高知県における特別支援学校の再編に関する検討委員会の意見のまとめ
・「意見のまとめ」（案）についての協議

・協議の概要

【はじめに】【1 特殊教育から特別支援教育へ】

○「自閉症児」という文言を「自閉症のある児童生徒」に変更。

【2 県立特別支援学校の現状と課題】

○「重複障害児」という文言を「重複障害のある児童生徒」に変更。

【3 今後の特別支援教育の在り方について】

○「知的障害児童生徒数」という文言を「知的障害のある児童生徒数」に変更。

○県の施設を活用するという点については、県立の特別支援学校を含めてということか。各県の中で高等学校の中に特別支援学級を作ろうという動きがあると聞いているが、そのあたりの考えはないのか。検討する必要があるということについては、今後検討委員会で考えるのか、事務局で考えるのか。

○1点目は、そこまで具体的な話にならなかったということと、併設・併置についても焦点化されなかったということ。2点目は、特別支援学級については、今回は議論できなかったのを記載していない。3点目については、意見のまとめを受けて事務局の方で検討する。

○検討委員会の中で、子鹿園分校に高等部の生徒も受入れてほしいという意見が出たが、「など」という表現に含まれているのか、あえて明記しなかったのかどうか。

○「など」という表現や特別支援教育制度というところで、高等部という記載はしないがそれらを含みこんだ表現であるということを確認をする。

○今、自閉症・情緒障害学級の子どもの進路保障について困っている現状があり、境界線のお子さんは高等学校にも入れないという現状がある。特別支援教育の理念というのは一人一人の教育的ニーズに対応していくための教育環境を整備することとある。今、全国的な流れの中では、自閉症や情緒障害児の子どもたちを知的障害特別支援学校などで受入れていこうという動きがあるということを知っている。今回の検討委員会では狭隘化についての話だったが、ぜひ、自閉症・情緒障害学級の子どもの進路保障についてもせっきくの機会だから考えてほしい。

○せっきくここまで話し合ったのだから、これを無駄にしないようにしてほしい。新しい学校を作るのであれば、もっと検討しなければならない内容もある。今後も引き続きこういう会を持ってほしい。

○今回は知的障害と肢体不自由ということで意見をいただいたが、今後このまとめをもとに再編計画を立てていく中で、必要があれば各学校に出向いていたり、保護者の皆さんのご意見を聞いたりとか具体的な話を聞く中でより良い方策を立てていかなければならないと考えている。また新たに会を設置してということについては、第2期についてはその他の障害種ということを考えているが、ただ、それぞれの学校、関係機関、保護者の皆さんと話し合っていく中で、意見を集約していきたい。

○短期的ビジョンと長期的ビジョンが今後の課題としてある。短期的ビジョンの山田と日高の人数増加についての対応策は、もっと早めにやって対応していただきたいが、そのあたりの考えはどうか。

○意見のまとめを受けて、事務局として早急に再編計画に入る。9月末を目途に再編計画の案を作成するようにしているので、それをもとに関連するところに説明に行くなど、行動に移したい。

○個々に応じて対応すると言われたので、丸投げすることなくやってほしい。

○今の状況では一番良い意見がまとまったのではないかと。事務局もこれから個別の対応ということになれば非常に大変なことが多いのではないと思うが、すでに、知的障害特別支援学校の狭隘化の課題は目の前に迫っているので、可能な限り急いでほしい。

○今後の対応の中で、具体的にどこをどうしていくのかについては、十分な説明と意見を聞くということが必要。来年どうするかについてはまた説明があると思うので、学校としても説明の機会を持ちたい。

○検討委員会の委員として参加させてもらい、いい機会に恵まれた。全国の教頭会で得た情報なども伝えさせてもらった。来年は来年で早急に対応してほしい。東部、中央部の特別支援学校の知的障害の子どもたちの学校ということで、ある一定の方向ができたのではないかと。

○特別支援学級におられる中学生のお子さんが、進路のことで困っている。特別支援学校へは難しいし、高校も難しいということが実際多々あって、結局いろんなことを模索して、いろんな形で進学していくことも実際あるので、そういうところをまた考えてもらえたら有難い。知的障害の特別支援学校では人数が多くて学校が騒がしいような環境にあるということがあると思うが、そういう特別支援学校で不適應になっている子どもたちが医療の方へたくさん来られる。一クラスは人数が少ないが、たぶんたくさん学年があって、いっぱい子どもさんがいて、その中でいろいろ無理がきている部分もあるのかなと感じるので、早急に対処してくれるのであれば医療としても有難い。

○いろいろ議論したことが、このまとめになり、玉虫色のまとめのような気もしないでもないが、あとは具体的にどう進めていくのかということ。個々の教育的ニーズはすごく異なる。近い学校に通いたいという人もいれば、寄宿舎に入って自立させたいということもある。そういうこと一つ一つに答えられるような学校を作ってほしい。障害を持っている方はそれなりのルートがあるが、手帳ももらえないという人はどうにもなくなっている。そこを助けてあげる必要があるのではないかと。障害を持っている方の中でも、障害の程度がすごく違うので、就労したいというような方に対しては、より高度な教育を求められている人もいると思う。それも個々の教育的ニーズなのではないか。その辺の各論についても事務局は頑張ってもらいたい。

○行き場がない、対象にならないような状態の方がたくさんいて、一人一人の障害のある子どもさんに対してのニーズに応じていくという方向で教育界が進んでいるので、ぜひ高知県が日本のモデルになるようなものを積極的にお願ひしたい。予算のこともあるだろうが、障害のある子ども本人あるいは養育者の方の意見をしっかりと吸収したものを作ってほしい。

○一般の県民市民感情からすると県有施設という言葉が非常に分かりにくくて、これについては市立などの施設は入らないということだと今は理解している。普通に考えたら高知市内の中心の小学校とかは個々の事情では思い出とかあるかもしれないが、これが通常の会社であれば必ず統合されているはずだし、そういうところはもっと柔軟に考えてもらいたい。先ほど、高校での行き先がないという話があったが、やはり行き着くところは卒業後の自立ということに尽きる。そのためには、やはり働く環境や受け皿作りというものを考えてもらわなければならないが、学校の先生には在学中まででいい。県の中でも卒業後は別の部署があるので、それは予算配分とか人の配置とかで考えてもらって、働ける、自立できるようにしないとこの問題は解決しない。それと、障害を持った生徒以外に中学校を卒業して高校に

いかずにふらふらしている子どもが高知市内にたくさんいる。自分の職場（量販店）のイートスペースにも、高校に行かずにふらふらしている子どもがよくいる。その子どもに話をすると、自称ニートとか社会のくずとかと言っているの、そういう人たちのことも考えてもらいたい。

○保護者の委員として参加させてもらったが、このような委員会に参加できたことをうれしく思う。子どもたちのためにいっそうの早めの対応をお願いしたい。

○この会に参加するまでは、知的障害特別支援学校や肢体不自由特別支援学校の現状をこんなに具体的に知ることはなかったので、いい機会をもらったと思う。このような場に出て初めて知るという状態は、残念だなと思っている。特別支援学校の現状というものを、機会ある度に示してもらえるような形や機会を持ってもらえたら、そこで保護者の持っている要望等が上って行くのではないかな。就労にも至らない生徒たちがいるという現状もあるので、学校のみならず行政の方にも一緒になって生徒の生涯という全体を鑑みて検討してもらえればと思っている。

○特別支援学校の再編については問われているのは計画性。どういう計画性を持って順次整備をしていくか、そういうことが一番問われていることではないかと思ったので、会議の途中でいろんなことを述べた。これからは具体化に向けてさらにいい意見を吸収していく場、意見を交換する場、意見調整の場、説明の場、そういうことを踏まえながら、学校一校のレベルでは解決できない時代なので、県の教育委員会がリーダーシップを発揮し、この難局を乗り切ってほしい。特に、この再編問題については県民の関心もあり、期待もあり、県教育委員会に対する信頼もある。具体化するにあたってのきめ細かな配慮もしてもらえたら有難い。今後さらに残された問題があるが、それについては早急に着手してもらい、状況の変化等に合わせてまた検討してほしい。

○ご意見の中に情緒障害とか自閉症のある中学生などの高校入学についてのお話もいただいた。高等学校への進学率は全国は97.9%、高知県は98.0%になっている。それでは救いきれてない部分があるとは思いますが、高校の方も多様な学習歴を持つ生徒さんへの対応をするような多部制、単位制の学校や、新しい対応の学校も各地に作り、できるだけ多くの生徒さんをお迎えできるように、また、今ある学校全てが特別支援教育の理念のもと、できるだけ高等学校への入学が可能になるように努力を今後とも続けていきたい。ただ、その後の出口の問題は大きな課題があると思っている。特別支援学校だけではなく高等学校を含めて、この不況の中で、就職をするということは難しい状況である。高等学校、特別支援学校ともに企業開拓をできるだけ積極的に行って、体験もしていただいて、その中で企業のご理解もいただきながら、こういう部分では働いていただける可能性があるということを企業の方にもできるだけ分かっていただくような、そういう機会を今後とも持っていくような形で努力していきたい。

○今回は喫緊の課題に関して限定的に議論をするというところだったので、知的障害特別支援学校と肢体不自由特別支援学校というまとめになった。だからこそ新たな課題が見えてきたとも言える。また、この中で具体的に書かれていないところでは、これはこういう意味合いを含んでいるということを確認したので、可能性を持っているというところでとらえてもらい、信頼をもとに最善を尽くしてもらおうということを切に願ってこのような文章表現でまとめておきたいと思う。

【おわりに】

特になし

—修正のため休憩—

会長から教育長へ意見のまとめを手交